

「札幌らしい交通環境学習の取組について」

札幌市市民まちづくり局総合交通計画部都市交通課都市交通係 岡 顕一

札幌市では「札幌らしい特色ある学校教育」として、「北国札幌らしさを学ぶ【雪】」「未来の札幌を見つめる【環境】」「生涯にわたる学びの基盤【読書】」の3つのテーマを位置付けています。

この3つのテーマのうち、特に「環境」「雪」という観点から公共交通機関の重要性を学び、自動車や公共交通機関をかしこく使い分けることができる人を育てることを目指して、「小学校における札幌らしい交通環境学習推進事業」を進めています。

本事業は、平成23年度から3年間にわたって交通エコロジー・モビリティ財団の支援を受けて、学識・有識者、教育委員会、小学校関係者などからなる「札幌らしい交通環境学習検討委員会」を立ち上げ、授業・教材プログラムの検討等を行っています。

本事業の目標として、学習指導要領と連動した学習プログラムの開発、各学年におけるMM教育の実施、教諭が主体となった授業の実施、市内小学校へのMM教育の広がり、関係団体等の連携体制の構築を掲げており、これまで様々な取組を行ってきました。

具体的には、教諭が主体となって学習指導要領に基づいて指導案を作成し、これまで5回研究授業を実施してきました。例えば3年生の社会科では、札幌市の地下鉄沿線に公共施設が多く配置されていることを見ることで、札幌市の土地利用の状況について学ぶ授業を行いました。

また、MM教育については現在行政、学校関係者、交通事業者等の関係団体で様々な取組がされているところですが、こうした関係者間の情報共有や連携のために「札幌らしい交通環境学習プラットフォーム(<http://www.ces-sys.net/MM/>)」を構築し、平成24年10月に公開しました。

今後は教諭が主体となった授業実践をさらに重ねていき、指導案集として取りまとめるほか、交通環境学習プラットフォームの充実、多くの学校関係者に交通環境学習について知っていただくためのフォーラムの開催等を通じて、本事業の目標を実現していきたいと考えています。